

第一章 第4節 「旧下田街道（+箱根神山）」スルーハイク

～ [吉田松陰の義憤と共に護送を警護&外輪周回から生命起源の奥底潜入] ～

標記旧街道を正身 2010（平成 22）年 12 月 16 日（木）から 12 月 25 日（土）までの延べ 10 日間を前半メインステージと後半サブステージに分けてトレイルし、メイン・サブの合計で、ルート沿い計画距離 175 km に対する実歩行距離 184 km を踏破しました。この時は登山用地図とインターネットに公開されている先人の踏査記録などを参考に歩きました。

1. メインステージ ～ [吉田松陰の義憤と共に護送を警護] ～

正身 2010（平成 22）年 12 月 16 日（木）下田をスタート～12 月 20 日（月）小田原ゴールの 4 連泊 5 日間、実歩行距離は 125 km、1 日当り歩行距離 25.0 km、同時間は 8.5 時間、同平均時速は 3.1 km となりました。もちろん、この期間中に休息日は入っていません。全ルートの概要は図-9 のとおりで、足跡を残した通過県は静岡県と神奈川県でした。

(1) 「大香ブランド^{RouCon}老魂サブタイトル」設定の背景事情

江戸幕末の義士、明治維新の精神的・理論的指導者の吉田松陰は、外国の先進文明を学ぶため、1854（嘉永 7）年 1 月、下田に再来航中のペリーの旗艦・ポーハタン号に船で漕ぎ着け、熱心に渡航を懇請し海外渡航（密航）を企図しました。しかし、肝心の乗船承諾を得られず、やむなく自首したのです。やがて、江戸伝馬町の獄へ護送されるために籠に乗せられ北上したルートがこの旧下田街道なのです。その後、松下村塾で講義するなど目覚ましい活躍をするが、1859（安政 6）年の「安政の大獄」で江戸伝馬町の獄に於いて斬首刑に処され、ここに 30 年の生涯を閉じたのです。

このように、高い志を掲げ信念を貫き公明正大の大道を突進した松陰の心に思いを致しながら歩きたかったのです。松陰と共にその義憤の心境を共有したかったのです。私が若い頃から心酔する歴史上の人物の一人である吉田松陰と一緒にどうしても歩きたかったのです。

松陰は、私がとても好きな次の短歌を残しています。この下田から江戸送りの途中、江戸は高輪の泉岳寺の前を通り過ぎる時、赤穂浪士の赤心に触れて籠の中から詠んだものです。

「かくすればかくなるものと知りながら やむにやまれぬ大和魂」

この歳になって、この短歌を読むと、自分の会社人生時代の若い頃の両肩に力を入れて突進した姿が浮かんで来ます。



図-9

書物などを参考にしながら私情も入れて解釈すると「このような事をすれば、このような結果（処罰を受け、投獄される事 → サラリーマンで言えば左遷、懲戒処分）になる事を十分承知している。しかし、腐敗しているこの世を正さなければ増々悪化する、その中で苦しむのは民衆である。よって、正義が全うする世にするため、止むに止まれぬ気持ちから、国禁を犯してまで自らがこの行動に踏み切った。これこそが日本人の日本人たる魂なのだ。」

このような松陰の気持ちに共感を抱き、国の行く末を案じながら共に語らい、松陰が護送された籠の警護役を引き受けて同行する気持ちで、メ

インステージの「大香ブランド老魂サブタイトル」を見出しの「吉田松陰の義憤と共に護送を警護」に設定したのです。

(2) 純なる古道を繋ぐ

スタート当日の12月16日(木)の午前中は、観光協会ボランティアガイドに依る下田市内の名所・旧跡、吉田松陰ゆかりの地を訪ねるイベントに参加し、同日13時30分に本格歩行に切り替えてスタートしたのです。

旧下田街道に於いては、川端康成の小説『伊豆の踊子』や、松本清張の小説『天城越え』で有名な旧天城トンネル——正式名称を天城山隧道と称し、1904年(明治37年)に完成——がありますが、そのルートでは無く、私は、歩かなければ通れない図-10のと通りの「旧天城峠(二本杉峠)」の山道を越えました。この道筋にも、寺社はもちろん石仏、石祠、石造が所々に佇んでおり、昔の古道そのままが残っていました。途中、河原を何回か横断する箇所もあり、深い山奥に入った気分にもなり満足感を覚えました。旧天城峠(二本杉峠)の説明案内版には、初代米国中日総領事ハリス一行や吉田松陰など歴史上の人物がこの峠を越えた、とあり、往時を想像しながら歩く事が出来ました。

また、印象にあるのが図-11の浄蓮の滝です。滝の垂直部分は彫れて岩の性質なのか苔なのか真っ黒い岩肌です。その中央部を、飛沫を上げながら流れ、白く輝くような水流が一気に落ちるのです。コントラストといい岩の盛り上りからは、現地においては生命誕生の源泉と繋がる神秘的なものを感じました。さらに先に進み、三島の三島大社の所で旧東海道と合流し、そのまま旧東海道を北上するのは一般的です。しかし、私は、旧東海道の北に位置しながら、ほぼ並行的に通っている「旧平安・鎌倉古道」を歩きました。



図-10

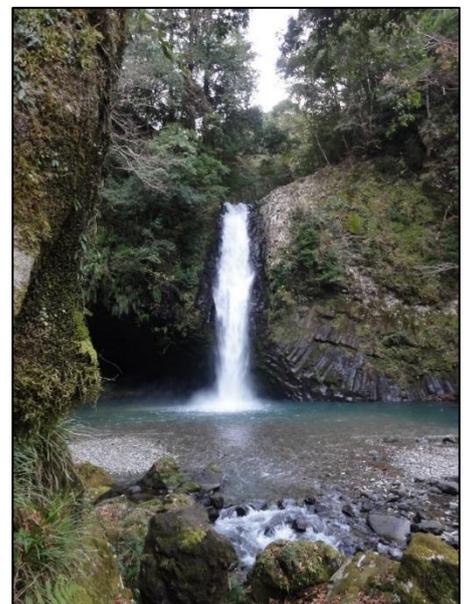


図-11

芦ノ湖外輪の峰で再び旧東海道に合流し、元箱根まで足を延ばし、そこに投宿しました。翌日は箱根の関所跡まで引き返し、そこからまた、旧東海道の北に位置する「旧平安・鎌倉古道」を歩き、箱根湯本で旧東海道に合流し、この後は旧東海道を歩いて区切り点である小田原まで踏破し、メインステージを閉じたのです。

「大香ブランド老魂サブタイトル」の「吉田松陰の義憤と共に護送を警護」のミッションを背負い、小鍋峠そして二本杉峠を越え、さらには旧東海道に入ってから最大の難所箱根峠を下り、折に触れて吉田松陰から人生の訓導を賜りつつ、無事小田原に到着しました。小田原では町奉行に警護の任を引き継ぎ、江戸に護送される松陰と別れを告げ、無事を祈りました。

ふと我に返った時に、この後、安政の大獄で処刑された松陰が、死の直前に家族宛てに残した、

「親思ふ心にまさる親心 ^{きょう} けふのおとずれ何と聞くらん」

の短歌が浮かんで来ました。

(3) 感想をつたない短歌で

“松陰に教えを賜^{たま}う心意気 やるかやらぬか自ら次第”

“松陰は国を変えんと先を見る その力を得て歩みが弾む”

“しっかりと護送警護を貫徹す 別れの眼には互いが涙”

2. サブステージ～ [外輪周回から生命起源の奥底潜入]

軌跡は図-12 のとおりの芦ノ湖外輪と箱根山頂の周回トレイルです。「サブステージ」のルートですが、前記「メインステージ」に引き続き歩く予定としたものの、21日(火)・22日(水)の中2日間は雨模様であると言う事から、小田原市内を徒歩遊学し、その後は東京品川に移動して品川宿^{しながわじゆくかいわい} 界限を徒歩で見学・散策して時間を過ごしました。この中2日間も「メインステージ」トレイルの延長線上に繋ぎ、両日とも1日中歩いていました。22日(水)の夕方箱根湯本に戻って翌日に備えたのです。

そして、正身12月23日(木)箱根湯本スタート～翌々日25日(土)箱根湯本ゴールの2泊3日間のトレイルでした。実歩行距離は59kmとなりました。

(1) 「大香ブランド老魂^{RouCon}サブタイトル」設定の背景事情

計画(=実践)ルートは図-12 のとおりで、箱根湯本(温泉)を基点に、芦ノ湖・箱根の外輪を形成する山々の尾根筋を繋いで、左回り周回の終了後、引き続き、この外形ラインの囲みのほぼ中央部に位置する駒ヶ岳・箱根神山をも周回する事にしました。この計画ルートを凝視する中から次のような事が浮かんで来ました。外側の周回ルートを俯瞰すると、同図のとおりで綺麗な扇型(ハート型)風のアウトラインに見えて来ました。この周回ルートに、箱根湯本と湖尻峠の辺りを直線で結ぶラインを入れると、ほぼ左(下側)右(上側)対称の形態も浮かんで来ました。霊妙な位置関係にあり、全体が女性の生命誕生の基^{もと}の姿にも映って来ました。箱根山頂はまさにGスポットに照応します。この自然の為せる業^{わざ}、とても神秘的で縁起の良いイメージが浮かんで来ました。このようなイメージが高まり、見出しの「外輪周回から生命起源の奥底潜入」に設定したのです。

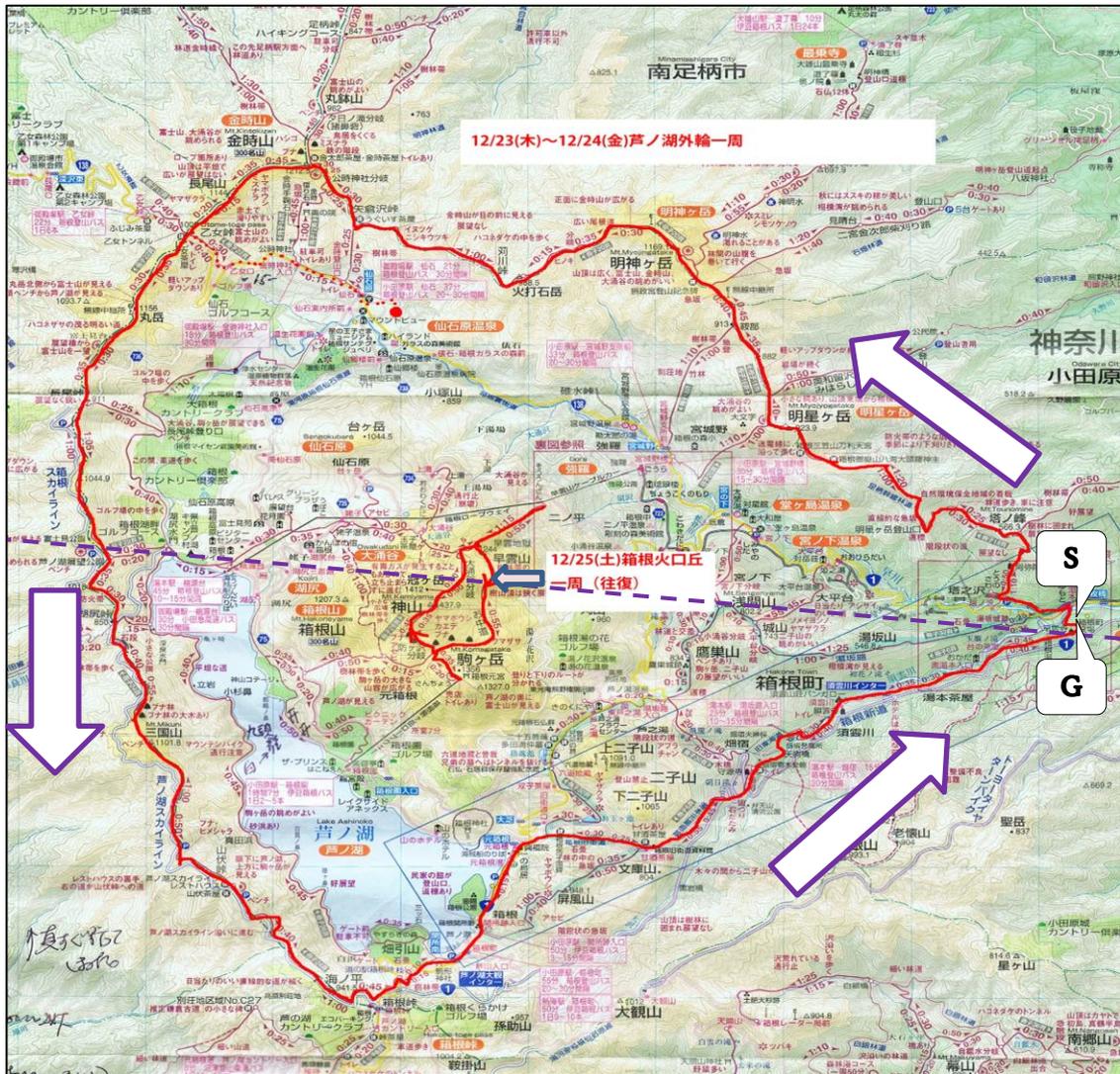


図-12

(2) 富士山と霧氷

1日目12月23日(木)、6時30分基点の箱根湯本をスタートし、芦ノ湖外輪を左回りに、朝日を背中に受けて歩き、また、頭に雪を被った秀麗な富士山を正面に見ながら、歩を進めるほどに眼前に近づく大眺望を得て歩きました。富士山眺望の集大成地点と成すのが図-13の金時山^{きんときさん}でした。ここからは真正面に仰ぎます。金時山からは新宿副都心のビル群と工事中のスカイツリーがはっきりと確認出来て、皆歓声を挙げていました。その後、乙女峠から主脈上のルートを一且離れ箱根仙石原に下りて民宿に泊まりました。

2日目12月24日(金)は、昨日離れた基点の乙女峠に戻って6時25分スタートし、残りの外周を左回りに歩きました。外輪を歩き終わった箱根関所跡からは、旧東海道を經由し、16時50分、基点である箱根湯本にゴールしました。この日は、富士山を背にする向きでしたが、振り返ると時々樹木の間から見えました。



図-13

3日目 12月25日(土)は、箱根登山鉄道・ケーブルカーを利用し、早雲山駅で下車し、8時5分に歩き始めて、箱根火口丘を一周(駒ヶ岳、箱根神社元宮を参拝後神山経由)し、14時に早雲山駅に戻り、歩きの全てを終了しました。図-14は箱根山の最高峰 1,438mの神山の凍り付いた山頂です。このように最終日の山域は、樹木にはびっしり霧氷が付着し、道は霜柱のジュータンが敷き詰められた状況で、全山鉛筆で描いたような、生命起源の奥底に潜入したものだけに見られる幽玄なモノクロ世界の景色でした。木の華そのものでした。まさしく全山墨絵そのものでした。



図-14

このような霧氷は山形のこの辺では 1,500m を越えないと見られないが、箱根で見られて真にラッキーでした。同ルートはこの体を以って自らの足で歩き、箱根火口丘に赴き箱根神社元宮(箱根三所権現)をお参りするこの行為は、神仏と合体する吾が身を感じたのです。氷点下の吹雪模様の中、灌木にびっしりと付着した霧氷の山域を、時には頭を^{すく}めて潜りながら歩いたが、私一人だけで、その上、下界はまったく見えませんでした。秘所の最奥に侵入した気分となり、生命の根源に吾が身を投じ(重ね)、連綿と命を繋いで来た遠い祖先に、そし生みの母への感謝の心を醸成する

行為でもありました。

まさに、「大香ブランド老魂サブタイトル」そのままの世界でした。

(3) 本トレイルの感想をつたない短歌で

“歩き来た足跡線に秘所重ね ^{いのち もと}命の基の礼拝旅路”
 “モノクロの霧氷世界に迷い込む 見たい会いたい箱根権現”

(end)

④ 2010 (平成22)年「旧下田街道(+箱根神山)」スルーハイク (7泊-8日間) の全踏破歩行記録 ----- 移動行程集計表

< GPS「オレゴン機」は不携帯に付き、後日歩行ルートを追跡して、「カシミール3D(フリーソフト)」により集計 >

「大香ブランド老魂サブタイトル」は ~ 吉田松陰の義憤と共に護送を警護&外輪周回から生命起源の奥底潜入 ~

累積 日数	行動月日		街道の歩行区間 通過主要地点・旧宿場名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間				平均時速 km/h	天候	備考	宿泊先 (略称)		
	月	曜日			歩行開始 時:分	歩行終了 時:分	歩行時間 時間:分	時間換算 時間				所在地	名称	
					b	c	d=c-b	e				f=a/e		
前日	12月15日	(水)		a	b	c	d=c-b	e	f=a/e		(前日泊)→	静岡県下田市	ビジネスホテルとん亭	
以下【下田街道】												スタート		
1日目	12月16日	(木)	[下田(S)]→下田市須原	12.5	13:30	16:25	2:55	2.9	4.3	晴れ		静岡県下田市	旅館「あずさ山の家」	
2日目	12月17日	(金)	(前終点)→旧天城峠→湯ヶ島	34.7	6:35	16:10	9:35	9.6	3.6	晴れ		静岡県伊豆市	民宿「天城ベニ屋」	
3日目	12月18日	(土)	(前終点)→韮山→三島大社→三島	32.1	6:25	16:40	10:15	10.3	3.1	晴れ		静岡県三島市	ホテルアルファワン三島	
4日目	12月19日	(日)	(前終点)→鎌倉古道→箱根峠→元箱根	21.2	6:35	16:30	9:55	9.9	2.1	晴れ		神奈川県箱根町	シャーロット	
5日目	12月20日	(月)	(前終点)→旧東海道→鎌倉古道→旧東海道 →小田原	24.7	6:50	16:40	9:50	9.8	2.5	晴れ		神奈川県小田原市	小田原ターミナルホテル	
小計				125										
1日平均				25.0					8.5	3.1				
以下【箱根地域の天候が下り坂にて歴史名所探訪に切替】														
	12月21日	(火)	小田原市→東京都品川								(小田原・品川宿周辺散策)	東京都品川区	東横イン品川	
	12月22日	(水)	品川→江の島→箱根湯本								(江の島周辺散策)	神奈川県箱根町	旅館「箱根水明荘」	
以下【芦ノ湖外輪と箱根火口丘の周回】														
1日目	12月23日	(木)	箱根湯本→芦ノ湖外輪半周→乙女峠→箱根仙石原	21.1	6:30	16:10	9:40	9.7	2.2	快晴	富士山三昧	神奈川県箱根町	民宿「福島館」	
2日目	12月24日	(金)	(前終点)→乙女峠→芦ノ湖外輪半周→箱根湯本	30.8	6:25	16:50	10:25	10.4	3.0	快晴		神奈川県箱根町	旅館「箱根水明荘」	
3日目	12月25日	(土)	(前終点)→箱根火口丘(駒ヶ岳周辺)周回 →[箱根湯本(G)]	7.2	8:05	14:00	5:55	5.9	1.2	曇り			ゴール	
小計				59							(最終日泊)→東京都中央区			
合計				184							175	←ルート沿い計画距離		
1日平均				23					8.6	2.8	22			
				km					時間	km/h	km			

(注1) 前半は下田から小田原までの下田街道、後半は芦ノ湖外輪と箱根火口丘の周回をトレイルした。

(注2) ルート沿い計画距離に対して実歩行距離が、9km(1日当たり1.1km程)長くなった理由は、山道の登降(沿面距離)、神社・仏閣立寄り等のジグザク歩き方の影響による。

(注3) 距離と時間の集計は、旧街道・古道沿い関係のみであり、長時間(片道15分・500m程度超過)街道を離れた場合などの移動ロスを除いて補正している。